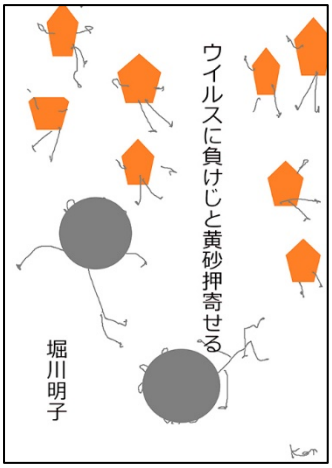
■今月の特選句

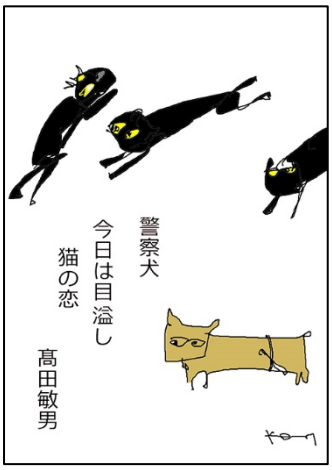
2020 年 4 月



ウイルスに負けじと黄砂押し寄せる

堀川明子

コロナウイルスが世にはばかるのを見て、黄砂が嫉妬している図だね。新参者の菌に対して、俺たち黄砂には何万年の伝統と歴史があるんだぞと。



警察犬今日は目溢(めこぼ)し猫の恋

髙田敏男

この句で警察犬が気まぐれであることが良く分かる。野外での不純な交遊として普段は厳しく取り締まるが自身も同類と気付いたのか。

その顔は食へる顔なり牛蛙

小林英昭

牛蛙には食える顔と食えぬ顔の種があり、牛蛙の顔は不愉快であり食えぬ顔だが食用になるから食える顔だと小林君はなに食わぬ顔で詠む。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

赤ちゃんの泣き真似をして恋の猫

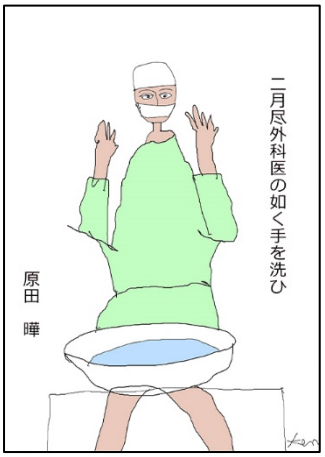
山田真佐子

恋猫の声は赤ちゃんの泣き声に酷似。どちらが本家なのかの判定は難しいが、恋猫が季語になってるから真似をしているのは赤ちゃんかもね。

けふはけふきのふはきのふ春の雲

百千草

今日は今日、昨日は昨日の春の雲と、日替わりの自在さを詠んでいる。ひらがなで書いているから雲のやわらかさも出ているね。



二月尽外科医の如く手を洗ひ

原田　曄

確かに外科医は丹念に手を洗う。肘までが手であるかに洗うね。年明けから新型ウイルスが広がっているが、ワクチンがないから自己防衛しかない。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

姉強気妹弱気バレンタインデー　白井道義
・・・義理チョコなんか姉ちゃん買わん

推し量る妻の機嫌やさくら餅　壽命秀次
・・・あんたワタシを太らせるのか

煩悩の雲晴れる日のなし遍路旅　金城正則
・・・本能の雨煩悩の雲

やーねーと屋根まで飛んだ隙間風　伊藤浩睦
・・・それはやたらと元気な風だ

やさしさはすこし残して土筆摘む　稲沢進一
・・・来年もまた摘みたいからよ

問いたれば絶好調と山笑う　久我正明
・・・思う存分眠つたからね

履歴書を書き損じては二月尽　西をさむ
・・・三月はじめやつと書き上げ

着メロの鳴りだすバッグ春の虹　工藤泰子
・・・鳴り終はる頃虹は失せるか

初場所や炎鵬関に投げるキス　田中早苗
・・・負けるな早苗がついておるぞよ

軍配はコロナに上がり花粉症　森岡香代子
・・・野球も相撲もやられたじやんか

霙でも集まる体操仲間かな　山本　賜
・・・霙ぐらいじや冷めぬ友情

瞬きの出来ぬ雛（ヒヒナ）のドライアイ　稲葉純子
・・・点眼薬を入れ雛納め

春場所や無観客なる肩すかし　村松道夫
・・・客はどこかへ「うつちやり」となり

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

＊今月の特選句･秀逸句以外の佳句を青字で表示しています。

誰が誰やらマスクの人ばかり	相原共良
鬼豆を撃つ身の内に鬼匿し	相原共良
捻じられて石抱かされ漬け大根	相原共良
浮寝鳥ねぐら持たないホームレス	青木輝子
うかつにも古女房に鬼は外	青木輝子
人間がいちばん害虫四月馬鹿	青木輝子
寒鴉嘴研ぐ口がすかさずカア！	赤瀬川至安
百パーセント意識して二月来る	赤瀬川至安
作業衣に余所行のあり木の芽風	赤瀬川至安
後れ毛を艶めてをりし春一番	井口夏子
神様をノックしている揚雲雀	井口夏子
生活音真夜に聞こえて春曙	井口夏子
神武どんが陛下になられた建国日	池田亮二
不眠症の春眠ぱっちり眼をあけて	池田亮二
濃茶二杯眠らぬ脳や春の闇	石塚柚彩
開店前並ぶ土日のマスク列	石塚柚彩
三．一一の如く籠るる新型コロナ	石塚柚彩
待春やコロナ菌即退治薬	泉　宗鶴
菜の花や月はどちらに日はどこに	泉　宗鶴
菜の花や月日は巡り郷の海	泉　宗鶴
空気感染真空地帯春の船	伊藤浩睦
棒詠みの歌なんだけど実朝忌	伊藤浩睦
とびとびに列を正して梅の花	稲沢進一
雨止んで部屋の明るさ桜餅	稲沢進一
グーチョキパーのパーをかざして春火鉢	稲葉純子
土鳩の巣に新婚さんのいらつしやい	稲葉純子
誕生日四年に一度爺の春	井野ひろみ
評判のプリン売り切れ山笑ふ	井野ひろみ
オープンカフェのパンのふんわり麗かや	上山美穂
バスの窓額縁にして山笑う	上山美穂
コロナウィルス地球の自転軋ませる	上山美穂
あたたかな風にとまどふ冬薔薇	梅岡菊子
合掌のポーズで凌ぎ春の雪	梅岡菊子
裸木はおしまひにして芽吹きたい	梅岡菊子
夫の愛した白磁の壺に赤椿	梅野光子
アカシヤの黄色を灯し夜の庭	梅野光子
墓標の字指でなぞれば風ぬくし	梅野光子
鮪の大かま大鷲となりて喰ふ	太田史彩
暖かなライヴ嗚呼コロナの渦中	太田史彩
大痣はタトゥーに似たり花の冷	太田史彩
新コロナ栖さがしの春の旅	大林和代
梅の花の大空を煙に巻きたり	大林和代
春眠を座席に残し下車したる	大林和代

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事･写真･イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写･転載等を禁じます。

枝ゆらすふくら雀となりにけり	小笠原満喜恵
サクラサクかたい握手の破顔かな	小笠原満喜恵
春風を羽根に受け止め川鵜かな	小笠原満喜恵
鷹化してベジタリアンの鳩となる	小川飩太
代わってあげたいあの娘の花粉症	小川飩太
我が家系ひひなに縁の終ぞなし	小川飩太
終灯や紅葉の女を想い出す	金城正則
気球に乗る夢を描きつ終灯す	金城正則
黄砂来るコロナウイルス連れてくる	久我正明
春泥にまみれる知事の公用車	久我正明
上書きの書類山積山笑ふ	工藤泰子
初虹の脚を蹴とばすハイヒール	工藤泰子
君がいないと命に関わる春の風邪	桑田愛子
ランゲルハンス島は洗濯日和風光る	桑田愛子
黒髪を結ひて働く君が春	桑田愛子
たんぽぽの不法入国見逃され	小林英昭
永き日や箒素振りをする尼僧	小林英昭
二ん月の逃げる孫へのチョコ選び	近藤須美子
木蓮の白近づける空の青	近藤須美子
チューリップつぼみなれども色競ふ	近藤須美子
コロナ流行り地獄となれる豪華船	佐野萬里子
他人事と思ひしに春の旅中止	佐野萬里子
コロナにて令和天皇参賀なし	佐野萬里子
花見酒極楽とんぼが仕切りだし	壽命秀次
猫の恋雌雄濁声憚からず	壽命秀次
福寿草咲いて固まるワンチーム	白井道義
豆撒いて鬼役引退セレモニー	白井道義
走り去る特急列車や春疾風	鈴鹿洋子
浮寝鳥下船の許可の下りぬ日々	鈴鹿洋子
スマホ決算の弁当を見せてもらう	鈴木和枝
カレンダーの二枚目二重まる誕生日	鈴木和枝
東京行きですかのんびり冬雲	鈴木和枝
北海道これも栄転雪解風	髙田敏男
ひと言を言わぬが花よ四月馬鹿	髙田敏男
注目度高し小さな咳ひとつ	高橋きのこ
マスクせぬ人の隣は空きしまま	高橋きのこ
せめてはと小さきマスクに雛の柄	高橋きのこ
たんぽぽよ飛べ人類は月へ飛ぶ	竹下和宏
春愉し恋といふ字に亦のあり	竹下和宏
金吉の浮気話や四月馬鹿	竹下和宏
地虫出づ大嘗祭の解体地	龍田珠美
AIに処方されたる風邪薬	龍田珠美
すれ違ふ車種を言ひ当て春疾風	龍田珠美
関所無し自由自在の肺炎ウイルス	田中早苗
鼻歌で孫帰り来るバレンタイン	田中早苗

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

おしくらまんじゅうストックの小花達	田中晴美
銀色の魚の跳ねる春の川	田中晴美
新型のコロナ潜むや春の闇	田中晴美
火の山は眠るひまなく不眠症	田村米生
鳥風やつぎつぎと発つ空の便	田村米生
大仏の鼻孔くすぐる杉花粉	田村米生
鷲掴みするも雛菓子こぼれ落ち	月城花風
春なのに×の並んだ予定表	月城花風
どちら様？マスク顔よりこんにちは	月城花風
号令に酔ふ人ひとり山笑ふ	土屋泰山
沈丁花そうだそうだあの人だ	土屋泰山
神出鬼没コロナウィルス辛夷咲く	土屋泰山
流行性感冒貰ふ卒寿の選択肢	飛田正勝
病み上がる卒寿快便春隣	飛田正勝
子の部屋に子の絵手紙の雛飾る	飛田正勝
三月やがつがつ食べるつつがなく	西をさむ
春風やコロナが舟でやつて来た	西をさむ
啓蟄のぐにやぐにや動く大地かな	花岡直樹
甘茶にはうんざり酒豪のお釈迦様	花岡直樹
花見にも気合入らぬビールかな	花岡直樹
石垣のモルタル破り春の草	林　桂子
餌付けされ肥満の春の雀かな	林　桂子
新ウイルス思い出づくりも侵食の	林　桂子
町内会の面々真顔からすの巣	原田　曄
集結の警察車輌春一番	原田　曄
コスプレの雛に成りきるスマホかな	久松久子
二羽なれば行つてらつしやあい残り鴨	久松久子
大阪の初雪なんやすかんたこ	久松久子
私たち出番だわねと花の種	日根野聖子
何やかやかこつけて買ふ春の服	日根野聖子
ウイルスに右往左往や山笑ふ	日根野聖子
恐れつつ恐れられつつのマスクかな	廣田弘子
新コロナ騒ぎに怯え恋の猫	廣田弘子
椿満開人住まぬ家の庭	廣田弘子
くしゃみ一つ阿れ此れ指図ウイルス禍	細川岩男
春節や痛し痒しのウイルス禍	細川岩男
風邪ひけば休め休めと上司言う	細川岩男
先見えぬ自粛の中の初音かな	堀川明子
おさがりを前提に買ふ雛あられ	堀川明子
問診票にひとつだけ嘘二月尽	南とんぼ
コロナの春じじばばチワワ蟄居中	南とんぼ
啓蟄はどういたしましょうコロナ殿	南とんぼ
春一番叩けど覚めぬシャッター街	峰崎成規
せつかちをいささか照れて地虫出づ	峰崎成規
青き踏む掴む用なき足の指	峰崎成規

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

壺焼を笑はせ火傷せり兜太	椋本望生
詩のかけらぽぽぽと落す紋白蝶	椋本望生
ボートレース魔女の魅せたる力瘤	椋本望生
啓蟄のコロナウイルス初見参	村松道夫
客人目つきの変はる春の雷	村松道夫
かみしめる雛菓子たった百十円	村山好昭
使わねば忘るる漢字桜散る	村山好昭
尼寺に似つかぬ色の春日傘	村山好昭
をさなごに小さき秘密蕗の薹	百千草
口笛はそつと吹くものチューリップ	百千草
春愁や目覚めて生を感じをり	森岡香代子
座して待つ仲間となりし落椿	森岡香代子
引退時期ののびのびとなる春炬燵	八木　健
春禽と呼べば鶏高級に	八木　健
捨てられる時悲しさう紙ひひな	八木　健
薔薇の芽がまだ見ないでと赤くなる	八塚一青
釣り人の眠気を覚ます眼張かな	八塚一青
褒められて桜ますます咲き誇る	八塚一青
体重の話に砕け雛あられ	柳　紅生
駄々こねてふらここバッテン印なり	柳　紅生
吊革はいやいや春の風邪流行り	柳　紅生
初舞台ひ孫お腹にいる孫の	柳澤京子
春うららテレビ体操ずつこけて	柳澤京子
コロナウイルス外出禁止にひな祭り	柳澤京子
今朝の風けさの氷を固くする	柳村光寛
天上に入管はなし鳥帰る	柳村光寛
花便り前金切れの葉書くる	柳村光寛
予定表コロナウィルスに感染し	山岡純子
手術後の天井見つめ春時雨	山岡純子
コスモス(宇宙)の種を植えたる春の庭	山岡純子
自家暖てふ走る選択エコ人間	山下正純
菱餅の桃雪新芽讃えをり	山下正純
後のため花待つ枝の物言わず	山下正純
ジュエリーは海の廃プラ風光る	山田真佐子
断捨離や風車またカラ回り	山田真佐子
子がつくりたまご固まる玉子酒	山本　賜
大小の植木鉢みな春野菜	山本　賜
外界はコロナ旋風冬ごもり	横山喜三郎
マスクとてつかひ放題俳句では	横山喜三郎
初詣せいぜいコロナ背負ひ帰る	横山喜三郎
東風のことポチと歌うや帰宅の子	横山洋子
句作りの背なを擽るゆず湯かな	横山洋子
うぐいすや家族の笑顔呼び起こし	横山洋子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

春の泥つけて頼もし下校の子	吉原瑞雲
ほめすぎにならぬ到来蕗の薹	吉原瑞雲
年寄が負けてなるかと青き踏む	吉原瑞雲
梅一輪老木力ふりしぼり	吉川正紀子
椿落つ耳に届かぬ音たてて	吉川正紀子
流行の風邪に邪魔され春の風	吉川正紀子
眉山は爺と同じや雛祭	渡部美香
大鼾して古宿に春の闇	渡部美香
寄書きで終わる初恋卒業子	渡部美香
春かなし入れ歯現はる洗濯機	和田のり子
バレンタイン出合ひし頃の為にあり	和田のり子

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。